

(様式第7号)

令和元年度 年度評価表

1 指定管理施設の概要

施設名	舞鶴市商工観光センター		
指定管理者	舞鶴商工会議所		
設置目的	商工業、観光等地域産業の振興を図り、もって地域の活性化に寄与するため。		
選定方法	公募・非公募	指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日
所管課	産業振興部産業創造室産業創造・雇用促進課		

2 利用状況等の推移

	令和元年度	年度	年度	年度	年度
利用者数(人)	34,727				
利用料金(円)	7,475,474				
指定管理料(円)	61,200,000				

3 成果(数値)目標の達成状況

成果(数値)目標の種類	市設定目標	年間目標(A)	実績(B)	達成率(B/A)
施設利用人数	45,000人	38,250人	34,727人	91%
施設利用件数	1,800件	1,710件	1,437件	84%
交流事業参加人数	—	3,170人	4,226人	133%
観光ガイド養成講座受講者数	—	50人	40人	80%
パソコン講座受講者数	—	70人	44人	63%

4 収支状況

(円)

収入		支出	
利用料金	7,475,474	人件費	12,385,584
指定管理料	61,200,000	維持管理費	54,605,210
事業収入	689,800	事業費	1,794,050
その他	6,233,540	その他	4,971,730
合計	75,598,814	合計	73,756,574
差額			1,842,240

5 所管課による評価

項目	評価	コメント
(1) 事業計画の達成度		
成果(数値)目標を達成しているか	△	2,3月の新型コロナウイルスの影響もあり、利用人数は目標に達成していないものの、交流事業参加人数は目標を大きく上回った。
施設の将来的な構想(ビジョン)に沿った運営を行ったか	◎	「観光情報コーナーi-port」ではパフレット類を充実させ、近畿職業能力開発大学校京都校(ポリテクカレッジ)との連携を通して産業のPRを図るなど観光・商工業の発展を見据えた活動が実施された。
施設の果たすべき使命(ミッション)を果たしたか	◎	パソコン講座やものづくり講座の開催等施設の特徴を活かした事業に取り組めた。
市指定事業、自主事業は計画どおり行われたか	○	市指定事業、自主事業ともに、計画どおり実施された。
利用者数の増加、利用率の上昇などが図られたか	○	様々なイベントの開催や広報、施設の美化・衛生管理等満足度の高い施設となるよう取り組めた。
(2) 利用者の満足度		
利用者の満足が得られたか	◎	満足度アンケートによると、「良かった」の評価が多くみられ職員の対応、施設管理ともに概ね好評価。
利用者の意見・要望の把握は適切に行われたか	○	施設の満足度アンケートや各事業の実施後にアンケートにより意見を聴取するなど、意見・要望の把握に努められた。
利用者の要望・苦情への対応は十分に行われたか	○	利用料金の改定やキャンセル料に関する苦情があったが、丁寧な説明の結果、ご理解いただくことができた。
(3) 管理運営の効率性		

経費の節減が図られたか	○	節電や照明のLED機器への交換など、電気使用量の削減に努めるとともに、水道光熱費については使用状況を精査し経費の節減に努められた。
委託費、物品の購入費等の経費が最小となるような取組が行われたか	○	内容を精査し、経費の節減に努められた。
収入増加のための取組が行われたか	○	一部閉鎖していた1階ロビーを全面開放し催し物を実施するなど利用者の増加に努めた。
(4) 適正な管理運営		
適切な人員配置が行われたか	○	適切な人員配置に努められた。
職員の能力向上のための取組が行われたか	○	適切に行われている。
施設の平等な利用が行われたか	○	平等な利用が行われている。
個人情報の管理が適切に行われたか	○	適切に管理されている。
情報の公開が適切に行われたか	○	適切に行われている。
収支状況や会計処理が適切か	○	適切に処理されている。
施設・設備の法定点検及び保守が適切に行われたか	○	センター管理業務仕様書に基づき、適正に管理されている。
備品等の管理が適切に行われたか	○	適切に管理されている。
危機管理、安全対策などは十分か	○	避難訓練を実施されるとともに、館内での犯罪や事故発生時に迅速かつ的確に対応できるよう、「危機管理マニュアル」を作成されている。
法令等を遵守し、適正な管理が行われたか	○	適正に管理されている。
(5) その他コメント		
サービス向上	職員ひとりひとりの丁寧な応接により満足度アンケートでは「良かった」との評価をいただいている。各職員が美化意識の向上を図ることで館内外の美しい環境の維持に努められた。1階ロビーを活用し、近畿職業能力開発大学校京都校(ポリテクカレッジ)の学校展を開催し「ものづくり」への関心を高めるとともに同校のPRをするなど、有効活用にも取り組まれている。また、イベントを広く広報することで来館者の増加にもつながっている。	
経費削減	節電や照明のLED機器への交換など、電気使用量(ランニングコスト)の削減に努めるとともに、委託費等についても内容を精査し、経費の節減に努められた。	
施設の維持・管理	安全性や経済性、衛生環境や周辺の美化等々に特に注意し、利用者、来館者への印象を損なわないように努められた。施設や設備、専用駐車場に損傷箇所があった場合は、迅速に対応し、必要に応じて市と協議している。	

※ (1)から(4)までにおける評価区分

- ◎(優)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準より優れた内容である。
- (良)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準に沿った内容である。
- △(可)： 協定書、仕様書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- ×(不可)： 協定書、仕様書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な内容である。

6 選定委員会による評価

評価点	3.16点	※左記の点数は、各委員が次の5段階評価を行い、その点数を平均したものです。 5：良い、4：やや良い、3：普通、2：やや悪い、1：悪い
総評	トイレの清掃等いつも適切に管理されているが、立地条件が良い割には稼働率が低いと思われる。1階ロビーのスペースの利用を図るべきである。舞鶴の看板施設としてもっとアピールしてほしい。とても良い建物なので、もっと市民が利用できるような工夫をしてほしい。一般市民にはあまりなじみがなく、利用機会がない。	

《参考》 過年度の評価点

年度	年度	年度	年度	平均